高等学校 令和６年度（２学年用） 教科　　公民　　科目 公共

教　科： 公民　　科　目：　　公共　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　 1 組～　　6 組

使用教科書：（ 詳述公共　実教出版　　）

教科　公民　　の目標：

【知識及び技能】 ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。
・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

【学びに向かう力、人間性等】 現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

科目　公共　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	・幸福、正義、公正などに着目して、主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づかせる。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。とくにエネルギー問題にあっては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目させ、原子力や再生可能エネルギーによる発電がどうあるべきか考察させる。 ・人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。 ・情報化社会における課題を踏まえたうえで、情報化社会に生きるためのモラルやルールについて、どのような規制や法整備によって調整をおこなっていくべきか考えさせる。	第１部　わたしたちの生きる社会 第１章　地球環境問題 １．破壊される地球（1） ２．破壊される地球（2） ●１　地球環境の危機 ３．地球環境問題への取り組み ●２　自然の保護と再生 第２章　資源・エネルギー問題 １．限りある資源 ●３　資源をめぐる動向 ２．エネルギーの開発と利用 ●４　原子力と再生可能エネルギー ３．人口問題と食料・水資源 ●５　人口と食料 第３章　生命科学と情報技術の課題 １．人間の生死と生命科学 ２．遺伝情報と利用の諸課題 ３．高度情報化社会と情報倫理	【知識・技能】地球環境問題、特に地球温暖化は、経済発展に伴う二酸化炭素などの排出、地球環境の汚染や破壊の問題であることを理解し、その知識を身に付けており、また、問題の生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】資源・エネルギー問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。また、課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 科学技術の発達、特に生殖への介入や尊厳死・安楽死の問題、脳死と臓器移植、遺伝子技術と生命の問題に対する関心が高まり、自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究し、自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。	○	○	○	6
	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。 ・倫理や進路指導と関連させる。 ・先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。 ・現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察させる。	第２部　現代の社会と人間 1　青年期の自己の形成 第１章　自分らしく生きる １．青年期とは ２．自己形成の課題（１） ３．自己形成の課題（２） ４．職業生活と社会参加 第２章　人間としてよく生きる １．哲学と人間 ２．宗教と人間 ●６　世界宗教の姿 ３．科学と人間 ４．自由との実現 ５．人間と幸福 ６．人間性の回復と主体性の確立 ７．他者の尊重 第３章　日本人としての自覚 １．古代日本人の思想と仏教思想の展開 ２．外来思想の受容と日本の思想	【知識・技能】　生涯における青年期の意義と自己形成、望ましい職業観・勤労観や男女共同参画社会、社会参加、などについて理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】　学ぶことの意義、人間の幸福と科学、人間の尊厳、正義と自由の意味について自らの人生とかかわらせながら多面的・多角的に考察し、現代の社会に生きる青年としていかに生きるかについて社会生活の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、追究し考察した結果を口頭や文章などで適切に説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】年の生き方に対する関心を高め、生涯における青年期の意義と自己形成の課題を意欲的に追究し、現代の社会に生きる青年としていかに生きるかについて考えようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

1学期	・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。	2　現代の民主政治と日本国憲法 第１章　現代国家と民主政治 １．民主政治の成立 ２．民主政治の基本原理 ３．民主政治のしくみと課題 ４．世界の主な政治制度 □	【知識・技能】国民主権と議会制民主主義など日本国憲法の基本原則と世論形成や政治参加の意義、民主政治の課題について理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】・現代の民主政治から課題を見いだし、個人と国家の役割や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について多面的・多角的に考察し、民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】現代の民主政治に対する関心を高め、民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方を意欲的に追究し、考えようとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
2学期	・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。 ・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解させるとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。 ・民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解させる。 ・法に関する基本的な考え方を身に付けさせる。 ・新聞などを教材として、身近な話題を示す。 ・政治・経済、日本史や世界史の学習内容と関連させる。	第２章　日本国憲法の基本的性格 １．日本国憲法の制定 ２．日本国憲法の基本的性格 ３．自由に生きる権利 ４．平等に生きる権利 ５．社会権と参政権・請求権 ６．新しい人権 ７．人権保障の広がりと公共の福祉 ８．平和主義とわが国の安全 ９．こんにちの防衛問題 第３章　日本の政治機構と政治参加 １．政治機構と国会 ２．行政権と行政機能の拡大 ３．公正な裁判の保障 ４．地方自治と住民福祉 ５．政党政治 ６．選挙制度 ７．世論と政治参加	【知識・技能】基本的人権の保障と法の支配、平和主義と我が国の安全など日本国憲法の基本原則について理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】・現代の民主政治から課題を見いだし、個人と国家の役割や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について多面的・多角的に考察し、民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】・現代の民主政治とその課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から個人と国家の役割や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。 ・金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。 ・新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させて説明する。 ・政治・経済の学習内容と関連させる。	3　現代の経済社会と国民生活 第１章　現代の経済社会 １．経済主体と経済活動の意義 ２．経済社会の変容 ３．市場のしくみ ４．市場の失敗 ５．現代の企業 ６．国民所得 ７．経済成長と国民の福祉 ８．金融の役割 ９．日本銀行の役割 １０．財政の役割と租税 １１．日本の財政の課題	【知識・技能】現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全などについて理解し、その知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現】現代の経済社会における個人、企業や公的部門の経済活動から課題を見いだし、消費者、納税者としての個人の経済活動における社会的責任について多面的・多角的に考察し、様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】・現代の経済社会における個人、企業や公的部門の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し経済活動の在り方について考えようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3学期	国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。 ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目させるとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。 ・経済のグローバル化が進むなかで、わが国がどのような対外政策を進めつつあるのか考察させる。 ・経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、ＮＧＯやＮＰＯなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察させる。	第２章　国際経済の動向と国際協力 １．貿易と国際収支 ２．外国為替市場のしくみ ３．第二次世界大戦後の国際経済 ４．こんにちの国際経済 ●１０　世界経済と新興国 ５．発展途上国の諸問題 ６．経済協力と日本の役割	【知識・技能】経済の国際化、労働力・資本・技術・情報などの地球規模での移動や貿易の拡大と不均衡、南北問題などを理解し、その知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現】・冷戦終結後の国際経済に関する諸問題から課題を見いだし、国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について多面的・多角的に考察し、国際社会における日本の責任と役割について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】冷戦終結後の国際経済に関する諸問題に対する関心が高まり、国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について意欲的に追究し、国際社会における日本の責任と役割について考えようとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
							合計 70